

第17回千葉県内水面漁場管理委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年9月30日（月） 午後1時30分から
- 2 場 所 教育会館303会議室
- 3 出席者
- 委 員 粕谷 清、山崎 明人、出山 輝夫、勝矢 久、村尾 真一、
戸谷 忠雄、高井 則之、近藤 昭彦、吉富 友恭
- 水 産 課 宮嶋課長
大槻漁業調整班長、曾根技師
- 漁業資源課 原課長
三井資源管理班長、横山技師
- 水産事務所 銚子：迫所長
館山：永山課長
勝浦：小森所長、末永課長
- 水産総合研究センター内水面水産研究所
藍所長
- 事 務 局 信太副技監、高山副主査

4 議事事項

- (1) 令和6年度全国内水面漁場管理委員会連合会東日本ブロック協議会に提出する
議題等について
- (2) その他

5 審議経過

【信太副技監】

定刻となりましたので、ただ今から第17回千葉県内水面漁場管理委員会を開会いたします。はじめに、粕谷会長から挨拶を申し上げます。

【粕谷会長】

委員の皆様には、大変お忙しい中、第17回千葉県内水面漁場管理委員会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

長く厳しい残暑もようやく収まり、すっかり秋めいてまいりました。この夏の平均

気温は昨年と並ぶ過去最高を記録したとの報道がございましたけれども、年々暑さが増していると感じており、温暖化による内水面の生物への影響を懸念しているところでございます。

次に、約20年ぶりに目標増殖量の委員会指示を再開したコイの産卵床設置については、関係する全漁協で取組が行われたとの報告を受けております。後ほど事務局より状況の報告をさせたいと思います。

さて、本日の議題は、令和6年度全国内水面漁場管理委員会連合会の東日本ブロック協議会に提出する議題等についてでございます。重要案件でありますので、委員の皆様方の慎重審議をお願いして御挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【信太副技監】

ありがとうございました。ここで本日の委員の出席状況を御報告申し上げます。

会議に出席できない旨の連絡があった委員は、高塚委員の1名でございます。委員定数10名うち9名の出席をいただいておりますので、本日の会議は成立していることを御報告申し上げます。

次に、議長でございますが、委員会会議規程第3条により粕谷会長にお願い申し上げます。

【粕谷会長】

それでは、議事を進行いたします。

まず、本日の議事録署名人ですが、委員会会議規程第10条により私から指名させていただきます。山崎会長代理と吉富委員にお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

議題第1号「令和6年度全国内水面漁場管理委員会連合会東日本ブロック協議会に提出する議題等について」を上程いたします。

事務局より朗読と説明をお願いいたします。

【高山副主査】

(朗読)

説明概要：全国内水面漁場管理委員会連合会が令和7年度に中央省庁へ提案する項目について、連合会が作成した素案を審議するもの。また、各分野からの重点課題の選出に係る審議と提案項目に係るアンケート調査結果について説明。

【粕谷会長】

朗読と説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

【高井委員】

2023年の6月からアカミミガメとアメリカザリガニが条件付特定外来生物に指定されて取締りが始まったということで、項目IVの5番に昨年の環境省の回答のところが結構出てきている感じですけど、どちらかという環境協議という感じで位置付けられているような印象を受けていますが、アメリカザリガニとかアカミミガメは千葉県の漁業的にそんなに悪い影響だというふうには捉えられていないんですかね。

Iの外来魚対策についてということで、魚ではないですけども、こちらでも何も触れられていないわけで。

資料1で、ミシシippアカミミガメは手賀沼漁協さんのところで漁業被害というところがございすけれども、新しく条件付特定外来に指定された2種類の位置付けというのはどんな感じなのかなど。そこを教えていただけたらと思います。

【高山副主査】

事務局より報告いたします。今回のアンケート調査の結果については、1ページ目の特定外来生物のミシシippアカミミガメ1件のみでありまして、アメリカザリガニについては被害の報告はないという回答結果でした。

【高井委員】

一応、アメリカザリガニは、内水面の生態系、水草や水生昆虫など地域的に影響を与えるということで、長い議論の末に今回条件付特定外来生物に指定されましたが、千葉県の内水面ではそんなに問題になることではないということですかね。

【粕谷会長】

私は農業をやっていた関係もあって、アメリカザリガニが入ると田んぼの保水力を相当低下させるということで、我々が子供の頃には、ザリガニを自分の家の前に持ってくるなど親から叱られたものです。アメリカザリガニの移動は我々が子供の頃からいけないことだということで育てられたものです。根源はどういうところから来ているのか、ということもありますが、田んぼの保水には相当困るということです。

【高井委員】

外来生物で問題になっているのは、食害の影響があると思うが、そういう感じではないのですかね。漁業面で取り上げるまでではないと。

【勝矢委員】

アメリカザリガニの話ですけど今は大分減っています。農業をやっているので、稲刈りが終わったばかりですけど、子供の頃には、この時期は田んぼの中に手を突っ込んでザリガニを取って、それを茹でておやつ代わりに食べたり散々しましたが、今は殆ど農薬の関係とか、水持ちを保つために昔は手でくろつけをやっていたが今は機械でやるようになって、田んぼの水も抜けなくなりました。アメリカザリガニが少なくなった代わりに、ミシシッピアカミミガメがすごく繁殖している。30センチも40センチもある甲羅の亀もあり、小魚をいっぱい食べられます。網をかけておくと、1週間のうちに40キロも50キロも亀が入る状況です。

【高井委員】

ありがとうございます。アメリカザリガニが今減っているというお話だったんですけども、印旛沼漁協さんに御協力いただいたりして、駆除しているカミツキガメを御提供いただいて胃の内容物を研究室で調べていたんですけども、出現頻度がすごく高くて、100個体カミツキガメがいたら半分ぐらいの胃からはアメリカザリガニが出てくるという感じですが、数が減っているとのことですが、そういう感じで、カミツキガメとかのエサとしてはすごく頻繁に出ており、生態系の中ではいまだに重要な役割を果たしているのかなという印象は受けています。

【粕谷会長】

ほかにありますか。

【近藤委員】

御説明ありがとうございました。私は、これを見ていてすごく重要だなと思うのは、提案するところが農水・環境・文科・国交省と非常に幅広いですよ。地方創生も考えると、総務省のほかのところにもいろいろ関連してくると思うんですね。

なぜかという、恐らく内水面漁場というのが、里川とか里沼として人の暮らしとも非常に強い関係があって、それがいろいろな関係性の中で災害とか食料の問題に繋がってくるからなんですね。

最近の政治というのは、理念的なことを政治家が言わなくなったと言われて久しいんですけど、これからの時代は理念的なこと、この国をどうしていくのかというところが前文の中に一、二行あると非常にインパクトが強くなるんじゃないかなと思うんですね。

恐らく、新しい政権は、災害と食料というのはかなり強く取り組まなければいけなくなってくると思うんですね。ただいろいろな項目が挙がっているだけだと、個別に対応していくだけで全体が見えなくなってくるので、トップの前文の方に、今アイデアはないんですけども、理念的な部分、総合的な、日本人の暮らしと関わる重要性を持っている、というところが入ると非常に強くなるのではと考えています。

【粕谷会長】

よろしいですか。

【吉富委員】

16ページのVのところですが、内水面漁場の魅力を啓発していくというところに関しては水産教育の推進と関わりが強いと思いますが、「回答、状況等」で農水省のコメントがないというのは、何か項目についての情報はなかったんでしょうか。

【高山副主査】

事務局より回答いたします。今回のこの資料は、中央省庁の回答を受けて全内漁管連が作成した資料となっています。ここの部分について、今回は農水省からの回答はなかったということになります。

【吉富委員】

恐らく、内水面を持続的に活用していくために内水面漁業への魅力というものの啓発というのが文章の最初に記載されていますので、この辺りは水産教育の中でも重要な点だと思うんですね。水産教育の推進ということは農水省も進めていますので、このコメントが一番私としては回答を得たかったなというところですよ。

【信太副技監】

この提案行動につきましては、全内漁管連の役員の方々が直接省庁に赴いて、各省庁に個別で手交した上で、意見交換もしていると聞いております。

この形で資料が届いており、推測にもなりますが、項目が多岐にわたり、たくさんありますので、回答に漏れなどがあったと思われます。

【山崎会長代理】

よろしいですか。私も、事前に資料が配付されて、5番のところは農水省さんの回答がなかったので、違和感を感じていたところです。ただ、今の段階で事務局にいただいた回答を聞くと、もちろんこれは全国的な事務局がやっていて、千葉県としては事務局はやっていないので、今のところは不明ですよという回答だったと思いますけれども、いい機会なので、またブロック会議もありますから、事務局から全国を統括しているところに一応問い合わせ、何か分かることがあったら次の委員会で教えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【信太副技監】

事務局で確認いたしまして、次の委員会で御報告できるようにしたいと思います。

【山崎会長代理】

よろしいですか。私も幾つかあるんですけども、最初に、Ⅱの鳥類による食害対策についての環境省からの回答のところなんですけど、シャープシューティングという言葉が出ているんですけど、今までもシューティングはかなりやってきたと思うんですけど、それとどのように違うのか。また、違うとすれば、それが今度千葉県の駆除対策の方にも活用されるのかどうか。事務局で分からなければ、県の担当課の方で分かることがあれば教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【三井資源管理班長】

漁業資源課資源管理班の三井です。一定レベル以上の技能を備えた専門的・職能的捕獲技術者、カラーと呼ばれているんですけども、そのような方たちが銃器を用いて捕獲をする体制がシャープシューティングというものになります。

カラーという方たちは、一般の狩猟の許可を持っている方たちに比べまして技能も高く、あと捕獲効率が極めて高く、個体数削減効果も高い、成鳥を選択的に捕獲することができます。

猟師の方は散弾銃を使うことが多いんですけど、カラーの方は空気銃を用いて1匹ずつきちんと周りに被弾することなく捕獲していけるというところで、効率的な捕獲の体制と言えます。

主にシャープシューティングというのは、飛来場所というよりはコロニーやねぐらで対策されるものであり、今現在大規模なコロニーがあります滋賀県等では、環境サイドが中心となって対策に取り組んでいると聞いております。

また、過去に千葉県においても、シャープシューティングを参考までに検討したところ、依頼を受けられる民間業者が限られているということもあり、委託料が高額になるというところで、すぐには頼めないという状況でした。

現状は、コロニーやねぐらでの捕獲は環境サイドの協力が不可欠であるため、今後は必要に応じて環境サイドとの調整を進めてまいりたいと思います。

【山崎会長代理】

ありがとうございました。次にⅥのウナギの資源回復についてですが、なかなか複雑な話になりますが、令和6年も令和7年も「国において内水面並びに沿岸海域に

おける下りウナギの採捕禁止措置等、具体的な対策を図っていくこと」という項目がございます。内水面漁場管理委員会としては、この要望を出す以上は下りウナギの採捕禁止措置等はやっていくんだよという立場に去年から立っているわけですが、その一方で、利根川の下流域でウナギ鎌という下りウナギを採捕している漁業があるわけです。

アンケートを見ますと、下りウナギを採捕する者も、ある程度資源管理の理解を得ながら、1月から3月までの間下りウナギを目的としたウナギ鎌の操業自粛をしているということで、資源管理の方向に向けて県も努力されているというような状況であります。

今後も、下りウナギのウナギ鎌による漁獲というものをどの様にコントロールしていくのか、その辺について県の考え方を伺いたいと思うんですが、よろしく願いいたします。

【三井資源管理班長】

現在、千葉県では、資源保護の観点ということで、先ほどおっしゃいましたように1月から3月、ウナギ鎌を自粛していただいております。今後も、ウナギ鎌漁業の継続というところもございますので、地元の漁協さんと協議を重ねていきたいと考えております。

【山崎会長代理】

そうすると、資源管理を進めていくという方向で協議を進めていくという形になるわけですか。

【三井資源管理班長】

強力に進めていくというところではありませんが、現状を見ながら、ウナギの資源等を勘案しながら協議を進めていきたいと考えております。

【山崎会長代理】

ありがとうございます。その辺、県も管理を進めていくという立場でよろしいですね。

それから、最後に、重点課題についてというところで質問させていただきますけれども、Ⅳの河川湖沼環境の保全・啓発というところなんですが、今のところ1番と3番と5番と8番が重点事項としてこの委員会からは提案していこうとする回答案を事務局で作っていただいたんですけども、これはこれで理解できる案になっていると思っております。

確認したいのは、河川湖沼環境の保全・啓発のところの4番の部分。4番の部分が何かと言いますと、特に外来植物について対策を求める要望内容になっていますが、アンケート結果では、ナガエツルノゲイトウとかオニビシについて、漁業の支障になっているとの回答があり、最近ナガエツルノゲイトウとかオニビシとか、環境サイドが事業として駆除しているという話も伺っております。

その辺のところを踏まえて、千葉県としてはナガエツルノゲイトウ、特に印旛沼とか手賀沼辺りで随分減っているという話も聞くんですが、今回オニビシは外来生物ではないので関係ないんですけども、特にナガエツルノゲイトウについて重点的に千葉県として駆除してもらいたいということであれば、ここに丸印をつけるかどうかというところが一つポイントとしてあると思うんですね。今日は印旛、手賀の委員の方もいらっしゃっていますので、その辺の状況等とお考えを確認する必要があるのではと思います。よろしくお願いいたします。

【勝矢委員】

手賀沼の水環境推進協議会という周りの市町などが全て加わっている会議にも出ているんですけども、県では、一応ナガエツルノゲイトウの駆除を今年度で全部終了するとしています。

その中で、私からの質問として、これから全部取ったとしても、千切れたやつが再度また増えてくるでしょうと。現に全部取り切れていないし、河川の方へも結構入っていると。予算が縮小されちゃうと手賀沼はどうしようもなくなっちゃうんじゃないですか、また元に戻っちゃうんじゃないですかということで、だから、内水面の方からももっとプッシュしてもらえれば、水環境だけじゃなくて漁業権的なものからもより長い目で見てもらえるんじゃないかなと。

水協議会では、今年度の予算で取りあえず取り切りますというようなことは言っているんですけど、絶対取り切れないし。小さいうちに早く取ってください、どうか

してくださいと言っていて、5年、10年経って今の状況になっちゃって、今度は土地改良から、沼の水をくみ上げて田んぼへ放水する時に入り込んでいる。きれいに管理している田んぼはいいんですけど、管理しきれない田んぼにナガエツルノゲイトウが入り込んでいます。

【出山委員】

続いてよろしいでしょうか。印旛沼漁業組合の出山と申します。今手賀沼さんからお話がありましたけれども、そのとおりでいいですね。一昨年でしたっけ、1億円ぐらいかけて補助しましたよね。ところが、その後どんどん繁殖しております。

印旛沼も今、オニビシとナガエツルノゲイトウが大繁殖しています。ますます水質そのものが悪くなっている状況でございます。

今回、余談にはなりますけれども、県の瀧田議員が今度議長になりました。瀧田議員は、印旛沼漁業組合の今審査委員会の委員でございます。ヒシ刈り船にも何回か乗っていただいて、印旛沼の状況を十分確認いただいております。

毎年、印旛沼もオニビシと、一番繁殖力の強いナガエツルノゲイトウ、これだけは駆除していただかないとどうしようもないということで、水質も今完全に悪くなっています。

何でこのような水質のことを言うかといいますと、飲み水、それから農業、工業、そういったところに今利用されておりますので、第一、第二の汚水沼にならないように今努力しているところです。

漁業も、先日まで300人いた漁師さんが200人足らなくなってしまい、200人足らなくなった漁師さんの中で50日以上稼働している漁師さんは大体30名ぐらいしかいないんですね。高齢化もあるということで、動力に使うエンジン、燃料、船の管理に大変なお金もかかってきますし、体力のほうも、高齢化したので、なかなか漁師さんも漁に出るという機会が少なくなっています。

そういう環境の中で、そのほかにカミツキガメの問題もありますが、これを高級料理に使えないかということで、シェフに頼んで、我々もそれを食すというところまでできています。そういった取り組みによってどんどん亀や有害動物を食して無くなればいいなとは思いますが、オニビシだとかナガエツルノゲイトウはそうはいきません。

先日も、オニビシについては化粧品の材料にしようということで業者が来ましたが、なかなかそれも思うように進んでおりません。そういった状態で、手賀沼さんと印旛沼は今苦慮しているような状況です。

【勝矢委員】

手賀沼は、もう一つ、今年と去年、ハクレンが相当死んで、柏の市民、我孫子の市民から、臭い、どうにかしてくれよと。何で死んだんだと。その原因というのが、多分酸欠じゃないかと。手賀沼が浅くなったため、1回へドロをくみ上げたんですけど、またへドロが溜ってしまい、沼の真ん中でも、夏場だと船の船外機がついてしまうぐらいの深さで、そうすると端に寄っていたハクレンが死んで、腐って、臭いましたので、県に頼んでそれを駆除してもらった。二、三回やったのかな。

まだセシウムもあって、水環境のときにもう一回どこかへ出してくれと言ったんだけど、水はきれいですよ。北千葉浄水で利根川の水を江戸川に送る間に手賀沼へ放流しているから、水はとってもきれいになりました。されどへドロにセシウムがまだということでモニタリングはしています。

モニタリングの結果が大分よくなってきたので、もうそろそろ解除しようと。そう言われても、さっき印旛沼さんが言っていたように、300人が200人になったのはいいんですけど、こちらは私が組合長になってから200人が90人位にまで減っています。何のために漁業組合員になっているのかという考えの人が増えてきているので、もう少し漁業のほうに目を向けてもらいたいんですけども、魚を取るよりも手賀沼で水上スキーをやったりヨットに乗ったりという人が増えて、そういう人たちが組合員に入ってきたりしている。

現状はそれで、今いるウナギ、コイ、フナ、昔は散々食べましたけど、食べてくれる人はいなくなりました。先ほどのカミツキガメを料理という話のように、そういうことをPRできて、もう少し昔みたいに食料にしてもらえれば、もうちょっとお金になればみんなやる気も出てくると思う。でも、環境も悪いし、まだ取っちゃ駄目だよと。水があって、人がいっぱいいて、ヨットに乗りたい、水上スキーをやりたい、そういうレジャー関係で、なかなか組合としても難しいような状況になってきています。

【山崎会長代理】

いろいろ状況を教えていただきまして、ありがとうございます。私もそういうことなのかなと考えていたんですけれども、であれば、重点課題の案は事務局の方で一所懸命考えて作っていただいた案だと思うんですが、そういうことであれば4番を重点課題にして、どっちかという5番は喫緊の課題でもないかなというような考えもあるんじゃないかなと思います。ですので、4番に丸をして5番を取るというのも一つの検討案なのかなと思いますので、いきなりの提案で申し訳ないんですが、御検討よろしく願いいたします。

【近藤委員】

4番のナガエツルノゲイトウなんですけれども、私も印旛沼の健全化の方でずっとナガエのモニタリングをやっておりました。最初の5年間は、ドローンを使って、桑納川で駆除しながらモニタリングを行い、その後は学生さん等の協力を得て、いろんなところで毎年駆除活動等を健全化の方でやっています。

結論として何が必要かとなると、駆除というよりも低密度管理で、毎年毎年少しずつ人間が手を入れて除去していかないと、あっという間に水面を覆ってしまう。そうすると、ここは漁場ですので魚類にも影響すると思うんですけれども、その他の災害等、いろんな問題が出てくるということで、県も駆除を始めて、今年で終わるといのは知らなかったんですけれども、いいかなと思っていたんですが、恐らくこれで活動を止めるとナガエがどんどん増えてくる。そうするとまた同じ問題の繰り返しになってくるということで、ここはナガエと我々の付き合い方をどうするかという非常に難しい問題なんですけれども、継続的にナガエの駆除というは行わなければいけない状況になってしまったのではないかなと私は思っているんですね。県としても、恐らく日本全体の課題にもなっていると思いますけれども、かなり危機感を持った対応が必要なんじゃないかなといのは、我々、ナガエに関わってきて思い至っている部分であります。

【信太副技監】

事務局です。重点課題につきましては、今年度から、どれを優先的にするか議論してくださいということで依頼があったものです。

県とも相談した中では、ここの部分は色々な意見があった部分になります。委員から水路のほうまで広がっているという問題をお聞きしましたので、ここの部分は、4番という形で修正して提出させていただければと考えております。

なお、前段の検討では、最近、県の環境や土木部門がかなり駆除に力を入れていて、数的にはかなり面積を減らしていることや、在来種のオニビシは、依然として広範に広がり、船の航行なり漁業に影響があるが、オニビシはそこまではないのかなというような結論に至りまして、こういう結果にさせていただきました。ナガエツルノゲイトウに対する危機感が我々に少なかったものと思います。

【粕谷会長】

他に御意見はありますか。

【出山委員】

今の話を聞くとオニビシは今のところはまだ大したことないということですか。

【信太副技監】

本県の場合、オニビシは依然として広範な面積を覆っているということを数字でも把握しており、問題と捉えております。

【出山委員】

そうですね。先ほども申し上げましたけど、今度千葉県議長のさんに、ぜひ印旛沼の刈取船に乗ってもらおうと思っているんですね。何回か乗って回っていますので、今回もオニビシ、今一番繁殖時期で、もうそろそろ終わりなんですけれども、現状を見たらればオニビシの繁殖状況が一番よく分かるので、ぜひ議長の感想を後で聞きたいと。もう見たられば、ひどいもんです。誰が見ても分かると思います。

【吉富委員】

今、4番が重要というふうにお聞きして、私もそう感じました。ただ、5番を4番にするということではなくて、5番も外来種とか、現状に目を向けるための啓発というのはとても重要で、まずそのステップがないと外来種の対策とかいろんな活動を結び

つけていくことはできないと思うんですね。

あと、内水面漁業の魅力についても、今どういう形で発信していくかという、あまりほかの地域に比べても何か発信するような、魅力をアピールする媒体みたいなものがまだできていない状況ですので、早く取りかかれないと次世代の育成に関係することですので、これは5番も4番もとても重要なことというふうに私は感じています。

【山崎会長代理】

私も、5番は重要だというふうに思っておりますけれども、事務局からの指定でここは4つ選ぶということになっているんですね。ですので、4番に丸をつけるとどれか1個を消さなきゃいけないというような話になっていまして、どれも重要な問題なので本当に難しいところだなと思っておりますが、強いて言うと、5番を4番にするか、または8番と3番が、3番は「近年激甚化する水災害による内水面漁業への影響が大きい」という、ここは非常に重要なところなんです、8番と重なっている部分もありますので、8番を消して4番にするという案もあろうかと思っております。そこも含めて御検討いただければと思います。

【信太副技監】

事務局です。ここの部分の項目はどれにするのか。分野ごとに幾つまでという指定がありましたので、随分議論した部分となります。今、山崎会長代理のほうからお話がありましたとおり、3番と8番は少し重複感があるのではないかと。

3番については、激甚化する中で水害に強い川づくりであり、それは漁業の根幹にもつながることなので大事だと思います。もう一つは、長期的には今後気候変動がどう影響を及ぼすのかということも大事だということで、そうした中で3番と8番のどちらを優先するかとした場合には、3番のほうが優先順位は高いとしつつも、やはり8番目も外せない議論をしたところでございます。

【近藤委員】

気候変動問題というのは、今世界的に無視できない雰囲気があるんですけども、地球温暖化問題の現場における対応が3番ですよ。ですから、現場としては、3番を重要視するというのは非常に理にかなったことなのではないかなと個人的には思っ

います。

【高井委員】

3番と8番の文面を見ると、3番の赤字の部分で「近年の気候変動で大型台風や集中豪雨による河川の氾濫が」という感じで、8番も先ほど長期的な変動という話でしたけど、別に長期的なということは何も書いていないので、読んだ印象としては、気候変動が内水面漁業に与える影響の具体的な被害の内容を3番のところに書いてあるというだけのような気もするんですね。だから、これは3番に集約されるのではないかと。

【粕谷会長】

ほかに何かございますか。地域によって多少の考え方の異なりはあるかと思えますけれども、どっちを優先するのかというところを考えると非常に難しい問題であります。会議が始まる前に、山崎会長代理と今の手賀沼、印旛の人たちのこともどうだというような形で相談をしたのですが、いろいろ難しい問題なものですから、皆さんの意見をお聞きしたので、その中でまた修正をある程度させてもらい、提出期間が限られていますものですから、修正内容は私と事務局に御一任いただきたいと思いますますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【原漁業資源課長】

漁業資源課長の原です。皆さんの意見をお伺いしますと、「河川湖沼環境の保全・啓発」の重点課題に関しましては、当初1番、3番、5番、8番を予定していたんですけども、1番、3番、4番、5番に変更するのがよろしいのかと思えますが、各委員さんはいかがでしょうか。あと、議長、いかがでしょうか。

【粕谷会長】

では、今の意見に同意をされる方の挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

【粕谷会長】

挙手全員により、そのように取り扱わせていただきます。

次に、確認ですが、初めの提案の原案に対して、各委員さん方の意見を踏まえて提出することについて事務局で何かありますか。

【信太副技監】

申し訳ございません。提案項目の素案につきましては、先ほど近藤委員から、最初の前書きの部分に理念的な部分の追加、そういったものを提案していったらどうかのご意見がございましたので、そこについては事務局のほうでも今後どういうものを盛り込んでいったらいいのかを考えさせていただいて、提出まで本当に時間がないものですから、会長と相談させていただいて提出するという形が取れたら考えております。

【粕谷会長】

今事務局より説明があったとおりでございます。私と事務局のほうに御一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【粕谷会長】

異議なしとのことですので、そのように取り扱わせていただきます。次に、議題第2号、その他ですが委員の皆様から何かございますでしょうか。

(「ありません」の声あり)

【粕谷会長】

特になければ、本日の議題を全て終了いたします。次に、会議次第5のその他ですが、何かありますか。なければ、事務局から連絡をお願いいたします。

【高山副主査】

説明概要：コイの産卵床設置状況について報告。

【粕谷会長】

ただいまの報告について、質問等はございますか。

特に意見がないようですので、次に事務局より連絡をお願いいたします。

(事務局より事務連絡)

【粕谷会長】

それでは、これをもちまして第17回千葉県内水面漁場管理委員会を閉会とさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

午後2時49分 閉会